



FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第 117 号 (2025/7)
<http://www.ffi-saitama.com/>

Indonesia Banjarmasin クラブ受入 (5月15日-17日)

HC: 堀切 京子

今年の春の受け入れについては、当初ブラジル・カンピナスクラブを予定しておりましたが、ブラジル側の都合によりキャンセルとなりました。その代替案として、ストップオーバー受け入れクラブの募集に応募し、アメリカ・ミネソタのツインシティーズクラブの受け入れも検討されましたが、こちらも双方のスケジュール調整が難しく、実現には至りませんでした。

こうした紆余曲折を経て、最終的にインドネシア・バンジャルマシンのクラブを受け入れることが決定いたしました。一行は、私たち埼玉クラブを訪問する前に、5月12日から15日まで仙台宮城クラブに滞在することが決まりました。それが正式に決まったのは、今からおよそ2か月半前のことです。

準備期間が短かったことに加え、先方のACにメールを送ってもなかなか返信が得られず、出だしから不安の多いスタートとなりました。内心では、「何通もメールを送っているのに、なぜ返事が来ないのか」と、少々苛立ちを覚えることもありましたが、それでも、仙台宮城クラブの HC である



佐藤さんと連絡を取り合いながら、少しでも不安要因を減らせるよう努めてまいりました。先方の国民

性によるものなのか、あるいはおおらかな性格ゆえなのか、こちらからの問い合わせに対して返答がないまま日々は過ぎていきました。佐藤さんに伺ったところ、やはり同様の対応に戸惑っておられたとのことで、少



し安心すると同時に、それが私たち共通の課題であることを再認識いたしました。日本人の几帳面さが行き過ぎていたのかもしれないと反省しつつも、返信を待ち続ける中で、やはりやきもきして

しまったのも正直なところでした。そんな中、佐藤さんはいつも丁寧で、こまめにメールをくださり、実際にお会いしたことがないにもかかわらず、自然と大きな親近感を抱くようになりました。

国内外を問わず、こうしてフレンドシップが築かれていくことの素晴らしさを改めて実感し、心から感謝しております。そして、どのような経緯であれ、せっかくなので来てくださる皆様には、できる限り温かくお迎えしようと心に決めました。結果として、双方の親睦と交流は非常に有意義なものとなり、大きな成功であったと感じております。今回の交流を通じて、私たち FF メンバー同士の絆の強さを改めて実感いたしました。



ディアンとフレディを受け入れて

宇田 祐子

知っているようで知らなかった国、身近なようで遠い国、そんなインドネシアからアンバサダーを迎えるとあって今回の受け入れは本当に嬉しかった。我が家に来てくれたのは、物静かなフレディと朗らかなディアン。2人は歩くのがゆっくりだけれど、さり気なくお互いを気遣っている素敵なお夫婦。それに、2人の話すインドネシアのことは優しくて柔らかい印象で、人柄を表しているような気がした。

今回は東京を訪れる前の3日間だけの日程で埼玉クラブとしての観光は一日だけだった。でもそれだけに埼玉クラブの良さが凝縮されたものだったと思う。ウエルカムランチは賑やかで楽しく、大宮観光ではきちんとした計画のもと、それぞれの場所で有意義に過ごすことができた。歩行が心配なアンバサダーの為に車を用意してくれたことも本当にありがたかった。おしゃべりに夢中で、どれだけ埼玉を見てくれたのかな？と思うこともあったが埼玉クラブのホスピタリティはしっかり伝わったことと思う。



インドネシア人と聞くと思い浮かぶのは宗教と食事。お祈りは日に5回、食事は豚肉やてんぷら油にも要注意と思っていたが、会ってみたら、彼らはキリスト教徒だった。お祈りも肉も関係なく、何だか信じられない気持ちだった。私たち(私だけ?)の思い込みや認識のお粗末さときたら…。××人=〇〇、という決めつけた考え方はしないと思っていたのに、良い意味で見事に裏切られた出来事だった。やはり人だなあ、と再認識。そんな訳で我が家ではいつも通り、息子夫婦はもちろん孫たちとも遊び、話し、賑やかな時間を過ごした。

最終日は荷物もあり、エレベーターを乗り継いでの移動なので早めに出たら大宮駅に早過ぎる到着。余裕があってたくさん話せたのは私たちにとっていい時間だった。

別れてから、東京や大阪を楽しんだと連絡をもらった。いつか訪ねてみたい場所がまたひとつ増えた。

いつもステキな出会いをくれるFFとFF
埼玉の団結力に感謝
です。



大宮散策 土呂駅に集合

バンジャルマシクラフからの贈り物・シャナさん 西村 純枝



当初2名のアンバサダーを受け入れるつもりでしたが、お国を発つ直前にお友達のご家族にアクシデントあり、残念ながらお一人でたった2泊での埼玉クラブステイとなりました。

シャナさんが住んでいる南カリマンタン島では、以前は木材産業(今は加工品を輸出が多い)や宝石なども産出しているようです。

彼女はガーネットのようとお私の中では納得。ご主人を早くに亡くされ70年の荒波を持ち前の前向きなオーラで今を楽しむ人懐っこさと深みのある魅力的な女性でした。

1泊目は持ち寄りのホームパーティ(外山さんのアンバサダー2名と一緒に)でしたが、アルコールは飲まないとのことで、最初は私達もちょっと遠慮していましたが、すぐにいつもの如く飲みました。(汗)

羨ましい〜!と思ったことがありました。シャナさん宅もそうですが、メイドさんを(時には住み込みで)お願いしているお宅が結構あるそうです。昔の日本でも今ではもう死語ですがお手伝いさんとかいましたね。いいな〜と。

2泊目はさいたま市ツアー後、インドネシア料理店でいろいろとシャナさんから指南を受けながら、私たちは彼女のお国の料理をわいわいと楽しみ、その後カラオケに行きました。ちょっと聞いて先に戻ろうと言っていたのですが、外山(バンブー)さんの巧みな選曲裁きで、2時間最後まで全て口ずさみご機嫌でした。

着付けはできませんでしたが、母の羽織を羽織ってみたり、夜遅くまで短いステイを楽しんでくださったと思います。

HC 堀切女史や今回も photographer Mr.丸山さんたちお仲間の支えがあり安心の受け入れでした。



インドネシアからのゲストをお迎えして 外山 哲代

今回の受入れでは初めてイスラム教徒のお二人をお泊めして、3日間ではありましたが行動を共にし、その文化、宗教、食事など私にとっても多くのことを学ぶ交流になりました。

アンバサダーは、Banjarmasin クラブの Aida さんと Alya さんの母娘さんでした。Aida さんは、教養が感じられる可愛いミセスで、国会議員をなさっていたので、現役時代は、よくジャカルタとの往復をされていたとのこと。現在は主婦ですが、趣味は、ランの栽培で、毎日ガーデニングをなさっているとのこと。娘さんの Alya さんは、20代の現代的な女性でアニメと日本が大好きとのこと。Alya さんは英語を話すので、Aida さんとの会話の時に通訳を下さり、コミュニケーションはスムーズに進みました。



宗教上ポークは食べないことを聞いておりましたので、朝食で定番のハムやベーコンもお出しすることができず少し困りましたが、ニンジンのスープは大変気に入って下さいました。またお二人は生魚を召し上がらないのでせっかく日本にいらしたのに少し残念でした。木曽路のウェルカムランチで HC の堀切さんのお心づかいで、お刺身を違うものに変更して下さいました。良いご配慮だと思いました。

1日目も2日目もディナーホストのお宅にお邪魔をさせていただきました。日本の家庭の雰囲気を感じ、またゲスト同士リラックスしてお喋りをしたり、多くの種類の日本食を



召し上がって

頂きました。我が家の朝食時に、打ち解けた雰囲気です。いろいろな話をしました。お祈りの様子は、実際には見ませんでしたが、朝食前や、時間を見つけて日に何回か、旅行中でも行っていた様です。また我が家には2キロ半の小さな犬がいますが、宗教上は、犬は不浄と考えているようで敬遠している様子でした。ご自宅では、猫を飼っているそうです。今回の交流で、お二人には、日本の文化や生活の経験を通して、日本の良さを感じて頂ければ幸いです。



いたる所にある自販機に興味が

Salamat datang FF 埼玉 (ようこそ FF 埼玉へ) 郡山 育子

Banjarmasin はインドネシア中部カリマンタン島の港湾都市で、東洋のベニスと呼ばれ観光も盛んな州都。バンジャール人は東南アジア最大の辺境民族グループの一つで、多様文化が共存する魅力的な島。



そこからの Ambassadors は Magdalena(クリスチャン)と Ninu(イスラム教徒)の 50 代の御二人でした。仙台の宮城クラブの 3 泊 4 日を終え、ちょっとお疲れ気味の御二人は大きなトランクを二つずつ押し、大宮駅のロッカーに預入れ、木曽路での Welcome パーティーに参加しました。



Home host と座席を離し、出来るだけ参加メンバーとおしゃべりして欲しいと思いました。私も今時便利な携

帯の翻訳機能を使いおしゃべりしました。

イスラム対応が初めての木曽路は慌ててスープを取り換えたりは有りましたが、皆さんランチパーティーを満足して頂き、Magdalena と Ninu は大好きだと言う茶碗蒸しも頂きご機嫌でした。

御二人ともなま物、お寿司好きと言うことで、夕食に用意したのですが、宮城クラブからの歓待とご馳走に大分胃もお疲れの様で、八時にはお休みになりました。

次の日の朝は約束時間より 30 分早く下りてきて、朝食は 8 枚切り食パン一枚にひよ子豆バターとチーズ焼きとサラダに果物、紅茶で済ませました。



2日目の観光も浜さんにお願ひし、私は着付けやディナーの準備。せめて着物を着せて、牧野内さんの習字をして頂きたいと計画し、外山さんのアンバサダー 2 名と我が家のアンバサダー共に喜んで頂けて本当に良かった。参加メンバーには盛り上げて頂き感謝します。

イスラム教徒の女性は 1 日二回のお祈りをするそうで時間調整の気遣いがありました。明るくて気持ちの良い御二人でした。

お土産はバックと宝石を頂きました。
東洋のベニスに行ってみたいですね。

最近の FF Exchange もスタイルが変わってきたと感じる交流でした。



パンジャルマシクラブとの交流

石橋 博之



5月15日に久しぶりに木曾路でFFの食事会に参加をさせていただきました。皆さん相変わらず元気でパワフルでした。私の横に座っていたインドネシアの男性の Freddy さんに何か話でもと思い英語で話しかけましたが、私の英語が未熟なのか彼は英語が得意ではないのか通じないので、最終的に携帯の翻訳アプリを使ってインドネシア語で幾らか話してみました。最初は、機能の使い方が分からず相互会話が出来ず苦勞をしましたが、使っている内に何とか双方で会話出来るように成りました。仙台的旅行はどうでしたか、日本食は美味しいですか、など少しの会話でしたが日本と日本食を気に入った様で安心しました。

その後、西村さん宅のホームパーティーに招待されていたのでお伺いしました。パーティーが始まる前にソファに座って西村さん宅の庭を見ていました庭師さんが入って未だ半分程の手入れでしたがお庭

が広く緑が豊富で、庭を見ながら音楽でも聴いて一杯飲むのも良いかもしれませんね。

パーティーでは、インドネシアの女性が三人と西村さんご夫婦、外山さんご夫婦、大山さん、丸山さん、私と結構な人数でジュースやお酒類、果物、お菓子、料理など食べきれない程で大変お世話になりました。一人の女性は少し離れていたのあまり会話が出来ませんでした。私の前に若い娘さんと彼女のお母さんが座っていました。母親は議員さんをしているとの事でした。娘さんは大學出たてで今、お友達と一緒にお菓子作りをしていて、これから会社を起こし、インターネットでお菓子の販売をしたいと言っていました。どこの国の人も将来の目標や希望が有るのは夢が有って良いです。すね。



大宮散策の一日

岩澤 由美子



5月16日10時 大宮観光ガイド会の高比良さんのガイドで 土呂駅を出発しました(高比良さんには 下見にも同行して頂きました)。

盆栽村への道すがら ごみ集積所に残っていたゴミ(多分 ネットがかけられた不燃物だったかと思えます)を見て「あれは何ですか？」と質問されました。道路上に置かれた光景が不思議だったようです。住宅地を歩くというのは もしかしたら 何気ない日常の再発見に気付かされるのかも。盆栽の美しさ、その長い歴史、手入れの大切さや大変さ等々に感心を示してくれたのはうれしかったです。世話が大変なこと、値段が高いことなどの理由から 一般の家庭で育てている人が少ないことも納得していました。

Freddy さんが 彼の家の広い庭に咲く花々の

写真を見せてくれました。広々とした土地であれ 坪庭の盆栽であれ 植物を愛でる人の気持ちに差はないように思います。盆栽園、四季の家、漫画会館を巡り 大宮公園を通り抜けて 手打ち蕎麦屋大村庵でランチ。いっぱい歩いたあとの食事は 美味しかったに違いありません。そしてお腹が満たされたあとは 氷川神社へ。

高比良さんの丁寧な案内を デイホストの皆さんが興味深く聞いてくれたことを報告会で知り嬉しく思いました。私たち自身が楽しんでこそが本当の「お



も・て・な・し」ができることなのかもしれませんね。いずれにしても楽しい散策でした。

会員おしゃべりコーナー

初めての米国

原田 史

2010年、入会2年目。FF 埼玉クラブはドイツのあるクラブへの渡航を FFI から指示されたものの、先方に連絡してもなしのつづて。やっと5月に「受け入れ不能」の返事があった由。以後、沼会長や池田さんの驚異的な奮闘でオランダと米国の2方面に渡航のチャンスが訪れ、私は秋の2クラブ渡航でアメリカの地を初めて踏むことに。

10月1日から訪れたオレゴンのミッドウイラメットヴァリークラブは会員の住まいが点在していましたが、活発なクラブでした。大宮在住のほぼ同世代の会員とステイしたのは米人夫、英人妻のご夫妻の家。同宿の友のミニ生け花

教室を手伝ったり、ホストクラブの会長の豪華なリゾートマンションに泊めてもらったり、太平洋の対岸で、颯爽たる沿岸警備隊の面々と写真をとってもらったり、皆、楽しい体験ばかり。日曜日の教会での賑やかなバンド演奏にも「これが近頃アメリカに流行するというあの日曜礼拝なのか」と感銘を受けました。



オレゴン Coast Guard を訪問

1週間後にアイオワのダビュークへ。ミシシッピ川中流の中心都市、「でも誰も知らない」との嘆き節も。ホストは80歳の元アンティークショップ経営者の女性。家の内外のさすがのインテリア、熱心なボランティア活動、エネルギー溢れる圧倒的な迫力の人生の大先輩でした。

ウイグル族支援の夜間の会合などに出かける際には一人、留守番もしました。「中国が、共産主義がきらい」にこちらも黙っていないで、つたない英語で「昔、共産主義が世界の人々に希望をもたらしたこともあった」等と言ってみたり。いい歳をして、青臭い、でも楽しい時間を過ごしました。

ウイグル族支援の夜間の会合などに出かける際には一人、留守番もしました。「中国が、共産主義がきらい」にこちらも黙っていないで、つたない英語で「昔、共産主義が世界の人々に希望をもたらしたこともあった」等と言ってみたり。いい歳をして、青臭い、でも楽しい時間を過ごしました。

メキシコ旅行 フリーダに会いたくて

濱田 聖子

50年来の友が、誘ってくれたので、メキシコ旅行が始まりました。初めにメキシコシティのフリーダカーロが生まれて死んだ家を訪ねます。裕福な家に生まれ、優秀で医者になるはずの少女。思いがけない事故で、画家を目指すようになります。そして最愛の人ティエゴ・リヴェラと結婚して過ごした家でもあります。大きな庭に囲まれた石造りの屋敷です。彼女の使っていたいすやテーブル、ベッドにはデスマスクの写真も飾られていました。生涯、けがの後遺症に悩まされ、数回の流産を繰り返しながらも絵を描き人を愛した47年間の生涯、画家の息遣いを感じながら、ゆっくりと見て回りました。



二人のフリーダ



フリーダの家

旅行の前半で、ほぼ旅の目的は、達成されましたが、次にサンミゲルアジェンダという町に行きました。ここは世界一美しい場所と言われているそうです。ここに14年以上住んで、織物の先生をしている友達の知り合いを訪ねました。一見しとやかな日本女性ですが、芯の強さを感じさせる人でした。ちょうど時期がセマナサンタというキリストの殉教を感謝するお祭りだったので、町中で催し物があり楽しめました。

メキシコはそれほど豊かな国ではありませんが、人は親切ですばらしいと思いました。

大宮散策にて

インドネシアと埼玉県ゆかりの鯉



ボランティアガイドの高比良さんが大宮公園内を詳しく案内してくれました。小さな池の前で、「この鯉はインドネシアとゆかりがあるんですよ。」とインドネシアの方々に説明してくれました。立て看板には彩の国のヒレナガニシキゴイの説明が。「この池の鯉は、埼玉県の水産試験場(元農林総合研究センター水産支所)が、昭和57年にインドネシアのヒレナガゴイと埼玉県のニシキゴイを交配させて作り出した品種で、皇居二の丸の池にも放流されております。本県ゆかりのヒレナガニシキゴイです。かわいがってください。」とあり、ヒレナガニシキゴイの特徴として、尾びれや背びれ、胸びれが普通の鯉よりも1.5倍ほど長い、とありました。



6月28日(土) FF 関東ブロック会議 開催

今年は西東京クラブの主催で、町田市民ホールにて開催された。東京クラブ8名、埼玉クラブ8名、昨年は欠席だった Mt.Fuji 山梨クラブからは2名、西東京クラブは20名の参加。

全体会ではFR 佐原さんからFFIの方針に協力して欲しいとの要望があり、各クラブ会長からは今年度の活動についての報告があった。

グループ討議では ①これまでの交流で一番思い出に残ったこと ②FFの活動で今一番楽しいこと をテーマにそれぞれのグループで話しあった。一人一人の体験談がどれも素晴らしく、さすがFFの交流！と感じたひと時だった。軽食も用意され、西東京クラブのウクレレのパフォーマンスあり、我が埼玉クラブの埼玉サンバを皆で踊り、終始、和気あいあいと過ごしたブロック会議だった。次回主催は東京クラブ。

トピック

5月、いつもはZOOMで活動している、サークル「健康を語る会」のメンバー、7名が三好さん紹介の古民家風レストランでの食事会と国立散策を楽しみました。



今後の予定

8月	理事会 ZOOM会議	
8月29日(金)	行田散策	田んぼアート 古代蓮 古墳
9月14日(日)	理事会	
9月24日~30日	トルコ セフェリヒサルクラブ 渡航	埼玉クラブ12名+郡山クラブ3名
10月11月	理事会	
11月9日(日)	会員の集い	講演会他
11月26日(水)	会員の集い	浦和競馬場見学とホームパーティー

発行：ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉

広報部：浜 堀切 浜島 石橋 原田史 田中 川田 写真提供:丸山 HP担当 堀切

Mail：friendship.saitama@gmail.com

発行日：7月6日